

平成31年度(令和元年度)千葉県立若松高等学校 学校目標及び自己評価

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組, 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員アンケート, 保は保護者アンケート, 生は生徒アンケート)	アンケート回答率		自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	
					肯定的 回答	否定的 回答			
学校経営	1 業務の見直し及び精選により校務全般を効率よく機能させ、教職員がゆとりを持った教育活動のもと、安全で安心な学校づくりを目指す。 2 保護者や地域との関係機関と積極的に連携し、社会に開かれた学校づくり、信頼される学校づくりを推進する。	①教育活動の成果等、最新の情報をホームページに掲載する。 ②生徒の安全が確保された教育環境を整備する。 ③出退勤管理システムを活用し、職員の勤務時間に対する意識改革を進めるとともに、業務改善を推進する。	①ホームページの掲載内容と更新状況(月5回以上の更新)の確認	生 2	学校は、ホームページで積極的に情報提供を行っている。	73.2%	26.8%	1月23日現在で160回を超える更新がなされ目標は達成している。学校の様子が伝わるよう、行事の様子、進路の取り組み、部活動の様子、その他生徒の活動を中心に掲載した。	ホームページの更新回数等については目標を達成しているが、トップページに文字が多く情報過多の傾向があり、見やすさと言う点では課題がある。次年度以降ページレイアウトの改善を検討する。
				保 2		82.9%	17.1%		
				職 2		86.2%	13.8%		
学校経営				職 21	私は、業務内容の効率化や超過勤務の縮減に努めている。	66.7%	33.3%	年間3回の定期的な安全点検等により、破損箇所等については、緊急度の高いものから修繕し、安全な状態で教育活動ができる環境を維持した。また、定期的に職員が校内巡視を行った。さらに、台風等の対応については、メール配信システムを導入し保護者に確実に連絡を送ることができた。併せて規定の見直しを行った。	安全の確保という観点から、職員の点検、巡視だけでなく、生徒からの情報を積極的に受入れる体制を構築するとともに、防犯カメラ等の設置により一層の安全確保に向けた取り組みが必要がある。また、メール配信システムの効果的な利用方法の検討や非常変災に対応したマニュアルの一層の充実を図る必要がある。
学習指導	「分かる授業」により生徒の学力向上を図る。	①生徒による授業評価アンケートを実施する。 ②相互授業参観や授業改善に向けた研修を実施し、生徒の学習意欲を向上させ、わかりやすい授業となるよう授業改善に取り組む。 ③学びの基礎診断等を活用して学習課題を明確にし、指導と評価の在り方を研究し、授業力を高める。	①生徒による授業評価アンケートの結果(授業満足度80%以上)	生 授6	私は、授業の内容はおおむね理解できた	78.1%	21.9%	授業については、各科目の特性に応じて、自作教材等を利用し基礎的な知識を身に付けさせることを重点的に行った。授業評価の肯定的回答の平均は79.1%であり昨年度から2.2ポイント上昇した。生徒にとって考えを深める場面が十分満足できていなかった。	基礎的な知識を身に付けさせてから、思考を深めさせる段階に進む学習過程を見直すとともに、いわゆるアクティブラーニングを取り入れた授業をより一層充実させ、生徒に学力が身に付いたと実感させる授業づくりを進める必要がある。
				生 授7		90.0%	10.0%		
				生 4		72.0%	28.0%		
				生 授4		71.0%	29.0%		
				生 授9		58.3%	41.7%		
				生 授11		80.7%	19.3%		
				生 6		80.7%	19.3%		
	きめ細かな生徒指導を通して生徒の基本的な生活習慣を確立させるとともに、特別活動や部活動を充実させ、豊かな心を育てる。	①基本的な生活習慣・マナー・モラル・身だしなみの指導に学校全体で取り組む。	①生活指導の啓発回数と指導状況	生 10	学校は、遅刻欠席などの基本的な生活習慣指導を行っている。	89.9%	10.1%	朝の登校指導は、授業日全てにおいて実施している。生徒の挨拶指導や声かけ、身なり等の指導などきめ細かに行うことができた。また、遅刻欠席についても学年ごとに生徒の背景を捉えた上で改善に向けた指導を行った。	朝の登校指導は、基本的な生活習慣の確立に向けて効果が高い上に、生徒の様子を把握することにも有効であるので、今後も継続する。また、遅刻・欠席指導についても、生徒の多様化や家庭環境の多様化を踏まえて継続して行う。
				保 10		91.9%	8.1%		
				生 9		90.8%	9.2%		
				保 9		87.6%	12.4%		

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員アンケート、保は保護者アンケート、生は生徒アンケート)		アンケート回答率		自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)											
				肯定的回答	否定的回答	肯定的回答	否定的回答													
生徒指導		②個人面談やアンケート調査等により生徒理解に努めるとともに、職員間で情報共有を図る。	②アンケート及び個人面談からの情報の共有状況と対応状況	生 8	教職員は、生徒の相談に丁寧に応じている。	79.8%	20.2%	生徒対象のアンケートの記載や面談での情報については、当該委員会で当該生徒と面談等により状況を捉え、個々の事例について他の職員と連携し対応を進め、多くの場合は早期解決を果たすことができた。	校内組織間の連携をより強めるとともに、生徒の相談内容の多様化に応じ、他校のスクールカウンセラー等と連携し、相談解決に向けた丁寧な対応ができるようにする。											
				保 8		82.6%	17.4%													
				生 7	学校は、いじめや差別の防止に取り組んでいる。	74.7%	25.3%			SNSに係るいじめ等に係る講演会、人権啓発授業を実施した。生徒からいじめの疑いについて相談があり、関係委員会にて調査して早期に対応した。	引き続き、いじめに係る指導及び研修を実施するとともに、生徒の特性や人間関係が上手に構築することが苦手な生徒等について、早期に発見し、組織的に支援することも必要である。									
				保 7		83.2%	16.8%													
				キャリア教育	生徒や保護者が目指す進路選択の実現及びキャリア発達の充実につなげる。	①外部機関と連携し、体系的な進路ガイダンス等を充実させるとともに、保護者への情報提供も的確に行う。	①進路説明会・教員研修会の実施回数と状況及び保護者への情報提供回数					生 12	学校は、自立した社会人を目指した計画的な進路指導を行っている。	83.1%	16.9%	進路説明会(1年3回 2年4回 3年5回)、職員研修(2回)実施した。アンケートによると生徒の83.1%が満足している。また、保護者については、保護者面談を通して情報提供を行うとともに、進路講演会を実施した。	進路説明会は、今後も内容を見直しつつ実施する。職員研修については、大学入試、専門学校に係る進路指導の研修を行っているが、次年度、大学入試の在り方が変わることやキャリアパスポートの導入などもあるので、実施方法等についても検討する必要がある。また、保護者対象の説明会の内容についても検討する必要がある。			
												保 12		80.9%	19.1%					
生 13	学校は、希望進路に応じたきめ細やかな進路指導を行っている	85.3%	14.7%					面談週間において全員対象に面接を実施するとともに、クラス単位や進路指導部において適宜面接を実施し、個々に応じた支援を行った。	進路希望が多様化し、入試制度も多様化しているため、より一層個々に応じたきめ細やかな進路指導ができるよう組織的に対応できるようにする。											
保 13		78.9%	21.1%																	
生 14	学校は、体験学習、職業体験などの機会・情報を提供している	77.6%	22.4%							職業体験(1回25人参加)、ボランティア活動8回(約110人参加)実施した。地域の方から機会を提供いただき、生徒は、それぞれの活動に積極的に取り組むことができた。	職業体験については、生徒の希望の傾向に合わせて、機会を増やすことが必要である。ボランティアについては、引き続き機会を提供し、充実した活動となるよう支援する。									
保 14		77.4%	22.6%																	
特色ある活動	1 特別支援教育の研究指定校としてユニバーサルデザインの視点で学習環境の整備を進める。 2 国際理解教育の活性化を図る。	①ユニバーサルデザインに係る職員研修を実施する。	①職員研修の実施状況	千葉大学子どもの発達教育センター特任研究員小柴孝子先生をお迎えして職員研修を実施した。また、本校卒業生のプロ車椅子バスケットボールプレーヤー香西宏昭氏をお招きし、講演会を実施した。ユニバーサルデザインに向けた取組について職員の意識を高めることができた。		研究指定校としての取組として研修を実施したが、特別支援教育という観点だけでなく、多様な生徒に対応する上で有効な内容であるので、引き続き職員研修等で取り上げることを検討する。														
												②生徒にボランティアの機会を提供する。	②生徒のボランティア活動の状況	桜が丘特別支援学校において、運動会及び文化祭のボランティアに本校生徒が参加した。参加者対象に事前指導を実施し、特別支援教育について参加生徒の理解を促した。積極的に取り組むことができた。市原特別支援学校との交流も予定していたが、荒天により中止となった。		ユニバーサルデザインの社会構築について生徒に考えさせる上で、特別支援学校等におけるボランティアや交流の機会を設けることは有効である。継続して行うとともに、事前学習及び事後学習を適切に行う必要がある。				
								③短期・長期留学プログラムの他 国内留学、外国人との交流など全校で取り組める国際理解教育を推進する。	③国際理解教育の実施状況			生 19	学校は、国際理解・交流の機会・情報を提供している				76.7%	23.3%	ニュージーランド姉妹校への短期留学に8名、長期留学に3名が参加することができた。また、校外での宿泊セミナーや東京グローバルゲートウェイ等での活動、聖徳大学での英語でのプレゼンテーション等を実施することができた。	外部に向けた取組はできたが、体験できる生徒が限られることから、校内で国際的な交流を体験できる機会を設ける必要がある。
								保 19	85.0%			15.0%								